

定住外国人の子どもの教育を考える

結城 恵

群馬大学教育学部教授・群馬県生活文化部国際課職員
群馬大学・群馬県「多文化共生教育・研究プロジェクト」推進責任者

1

■在日ブラジル人学校

	H20. 12/1	H21. 2/2	増減数 (率)	
調査対象校数	90 校	86 校		
回答校数	67 校	67 校		
有効回答数	58 校	58 校		
就学前教育段階	1,330 人	600 人	-730 人 (▲54.9%)	} ▲34.9%
基礎教育段階	4,406 人	2,778 人	-1,628 人 (▲36.9%)	
中等教育段階	637 人	503 人	-134 人 (▲21.0%)	
計	6,373 人	3,881 人	-2,492 人 (▲39.1%)	

■在日ペルー人学校

	H20. 12/1	H21. 2/2	増減数 (率)	
調査対象校数	3 校	3 校		
回答校数	3 校	3 校		
有効回答数	3 校	3 校		
就学前教育段階	40 人	12 人	-28 人 (▲70.0%)	} ▲20.5%
基礎教育段階	112 人	94 人	-18 人 (▲16.1%)	
中等教育段階	20 人	11 人	-9 人 (▲45.0%)	
計	172 人	117 人	-55 人 (▲32.0%)	

定住するか・しないかという選択の明確化

理由	数(率)	
本国に帰国	722人 (42.0%)	
公立学校へ転入	160人 (9.3%)	
他のブラジル人学校等へ転校	53人 (3.1%)	(推計値・注)
自宅・不就学等	598人 (34.8%)	10.2% (就学前教育(自宅))
		24.6% (基礎・中等教育(自宅・不就学等))
不明	185人 (10.8%)	
計	1,718人 (100.0%)	

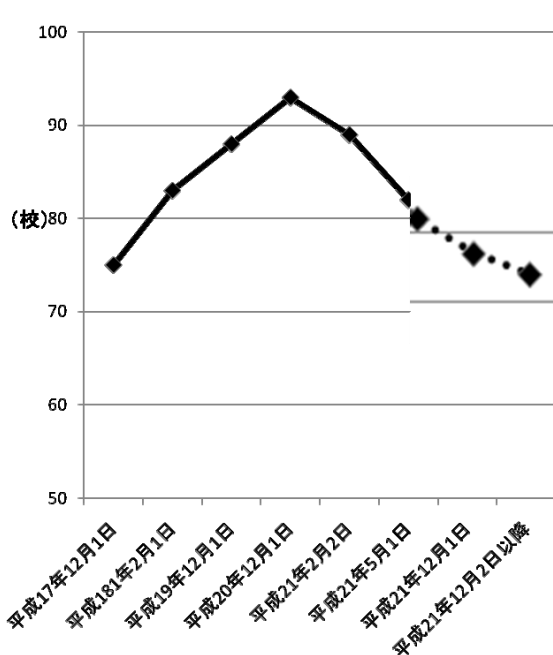
※平成20年12月1日現在と平成21年2月2日現在の両方の在籍者数を回答した58校中42校の回答

理由	数(率)	
本国に帰国	25人 (45.5%)	
公立学校へ転入	5人 (9.0%)	
他のペルー人学校等へ転校	0人 (0.0%)	(推計値・注)
自宅・不就学等	25人 (45.5%)	23.2% (就学前教育(自宅))
		22.3% (基礎・中等教育(自宅・不就学等))
不明	0人 (0.0%)	
計	55人 (100.0%)	

※平成20年12月1日現在と平成21年2月2日現在の両方の在籍者数を回答した3校中3校の回答

3

揺らぐ在日外国人学校の経営基盤



平成 17(2005)年
12月1日現在
75校

閉校 6校
対象外へ 1校
所在不明 1校

新設 8校
対象内へ 7校
所在確認 2校

平成 18(2006)年
12月1日現在
84校

平成21年度文部科学省「外国人教育に関する調査研究」委託研究報告書ブラジル人学校等の現状調査(研究代表者 結城 恵)印刷中 及び結城(2008)

4

不就学児童生徒の数は減少の見通し

■三重県教育委員会(平成22年1月26日公表)

- ※ 平成21年11月30日までの調査結果の概要
- ※ 数値は子どもの人数、()内は調査対象者(3,321人)に対する割合

(区分)	不就学となっていた子ども ※3	転居・出国等 ※4
人数(割合)	13(0.4%)	755(22.7%)

■群馬県教育委員会

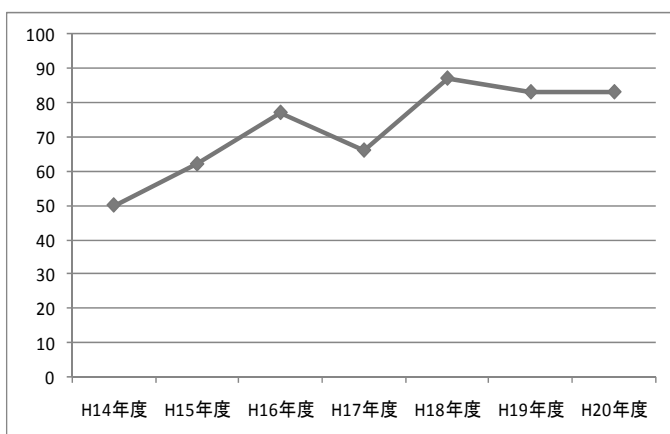
大泉町教育委員会、太田市教育委員会ともに現在調査中。
現段階では、一桁%となると予想(中間報告)。

高校進学率の上昇一定住化傾向の現れー

- 群馬県内の高校で学ぶ外国人生徒は269人(昨年5月1日現在)群馬
←10年で2.6倍増
←この間の外国人登録者の増加率(34%増)を大幅に上回る。

群馬県調べ 上毛新聞1月22日付朝刊

■太田市の外国人生徒の高校進学率の推移



- 群馬県内の外国人集中地域の外国人生徒の高校進学率(平成20年度)

大泉町	93%
太田市	83%
伊勢崎市	85%

太田市教育委員「2009太田市外国人児童生徒教育」共生」より報告者作成

健康状態 群馬大学外国人学校健康診断から

表9 総合判定の結果（複数判定該当者あり）

判定区分	所見なし	要指導	要医療	要治療継続
人数 (N=262)	35 (13.4%)	135 (51.4%)	174 (66.4%)	15 (5.7%)

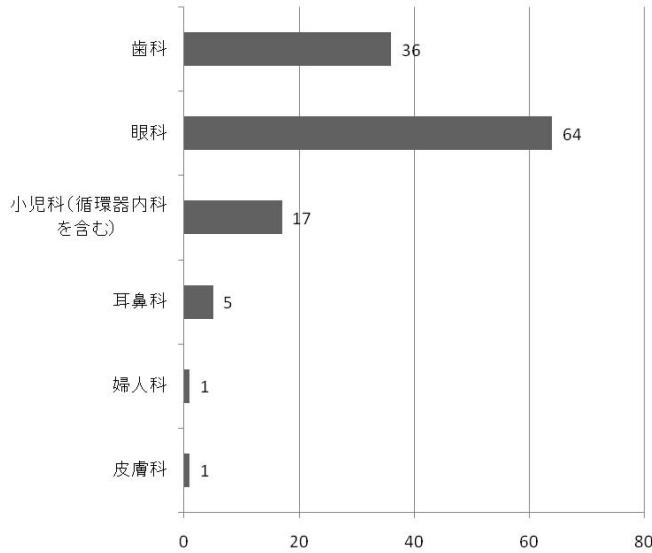


表10 診療科目別主な疾患

診療科目	指摘された疾患
歯科	う歯
眼科	視力低下
小児科 (循環器内科含む)	尿検査異常(10人)、 心電図検査異常(7人)
耳鼻科	鼻出血(2人)、鼻閉、鼻炎、 左鼻中隔発赤腫脹
婦人科	生理不順 (5か月生理が来ない)
皮膚科	両大腿部皮疹

平成21年度文部科学省「外国人教育に関する調査研究」委託研究報告書ブラジル人学校等における健康管理の在り方(研究代表者 結城 恵)印刷中

健康状態 群馬大学外国人学校体力測定から

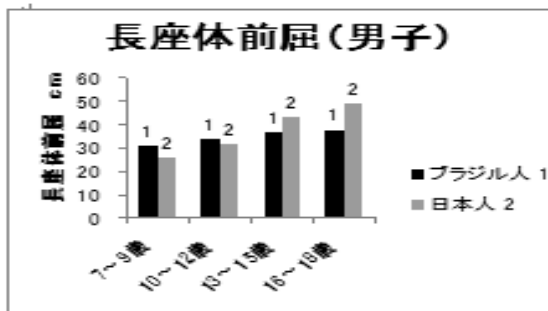


図7 男子長座体前屈の比較

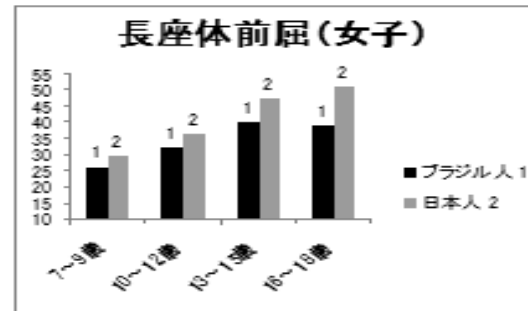


図8 女子長座体前屈の比較

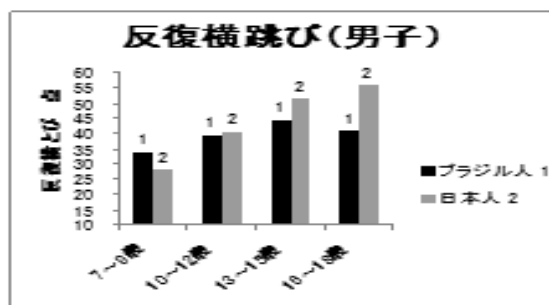


図9 男子反復横跳びの比較

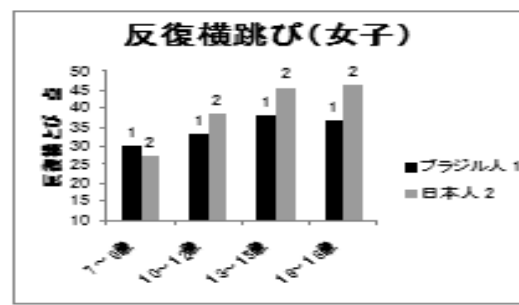


図10 女子反復横跳びの比較

平成21年度文部科学省「外国人教育に関する調査研究」委託研究報告書ブラジル人学校等における健康管理の在り方(研究代表者 結城 恵)印刷中

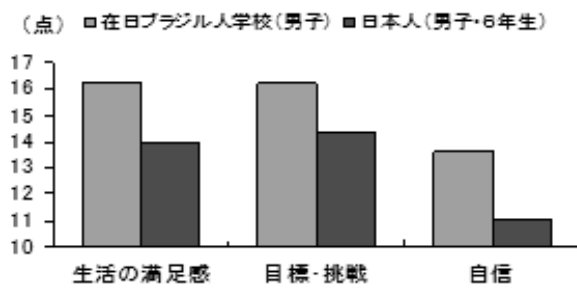


図2 やる気次元得点の平均値

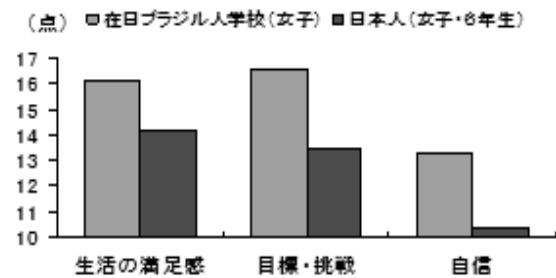


図4 やる気次元得点の平均値

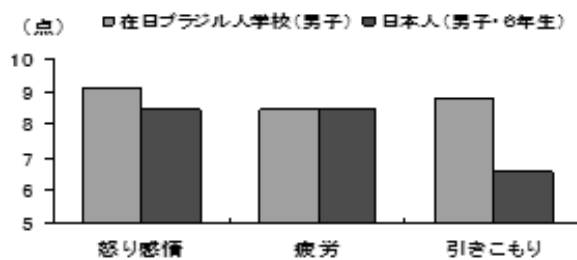


図3 ストレス反応次元得点の平均値

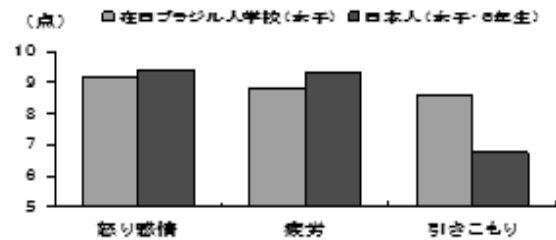


図5 ストレス反応次元得点の平均値

平成21年度文部科学省「外国人教育に関する調査研究」委託研究報告書ブラジル人学校等における健康管理の在り方(研究代表者 結城 恵)印刷中

定住外国人の子どもの教育へ課題

経済危機の影響

在日外国人学校の経済基盤と存立基盤を問い直す契機に、外国人児童生徒の家庭を「定住するかしないか」を決断させる契機に、なった。

■虹の架け橋教室←外国人学校に在籍する子どもが日本の公立学校への移行を考える契機に。

■在日外国人学校←存立基盤がより一層問われる時代に。

進む定住化

日本で生まれ育った子どもたちの増加

「外国人受入促進事業」は「適応」から「定住化」へのステージにあった内容を

定住外国人の子どもの教育へ課題と展望

教育支援の地域間格差を生み出さないために

教育支援の充実・教育活性化のための財源の配分の在り方

国民に問われる公共性・公平性

誰が何をどのように支援すべきなのか。何が優先すべき課題か。

日本本語教育・文化の教育＝社会的Unityを創る教育

健康管理・啓発教育

学ぶ意欲を高める教育体験(ロールモデル・職場開発)

保護者への啓発

人材育成の推進

「多文化共生推進士」養成ユニット(群馬大学・群馬県)

文化・発達段階に対応する日本語教師の育成

教員養成課程における多文化共生教育の推進